慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	J・ジョンストン著 竹内啓訳 計量経済学の方法
Sub Title	
Author	佐藤, 保
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1965
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.58, No.6 (1965. 6) ,p.250(98)- 251(99)
JaLC DOI	10.14991/001.19650601-0099
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19650601-0099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新刊紹介

沢崎堅造著
『キリスト教経済思想史研究』
――ルーテル、カルヴァン、聖トマス、アウグスチヌス研究――

著者は京都大学人文科学研究所所員として、基督教経済思想史の研究に従事し、昭和一〇―一七年の七年間に数多くの業績を「経済論叢」誌上に発表された。昭和一七年満鉄調査局嘱託という資格で熱河に向い、熱河及び蒙古に伝道し、終戦とともに消息不明となった。本書全篇には著者の時局への抵抗と贖罪の姿勢がうかがわれる。

第一章ルーテル研究は本書中最も質量ともにすぐれている部分で、ルーテルの経済観の根底にある人間観、即ち、人間の現実の悲惨・醜悪を他の誰よりも知悉していたルーテルの人間観から出発し、そこから神の意志にそう職業労働への従事に至る内的論理を解明し、服従と秩序を基調とした教説を分析する。次いで、神に立てられたものとしての権力者の責任を論ずる。その場合ルーテルにあっては秩序の維持が前面に出て来る。而して現世的統治の届き得ぬ世界があるとし、その限界を主張している。次に人類の歴史は、自己完成するものとしてではなく、審判を経て救済されるところの、断絶を経て発展するものとしてとらえられていて、この終末の保証が、現実の悪に耐える根拠となるのだ、と分析されている。更にルーテルの職業観はマックス・ウェーバーのいう所よりは保守的で、敬虔主義的職分観に近いとする。次いで「ルーテルの軍人論」「ルーテルとトルコ戦争」及び「ルーテルとドイツ農民戦争」の三つの補論は、戦争論で、人の現実の罪性と救済による新たな創造という矛盾を統一して論じている。ところで生の現実を「悲惨と栄光」にとらえる場合、どれ程の「緊張」＝相互於て渗透において把握するかが問題である。著者はルーテルを主観的・心情主義的にとらえる面で鋭さをもっていながら、「意図せざる結果」を齎らす歴史の皮肉を解明出来ないでいるきらいがある。併し、この三篇は著者の時局へのプロテストとしての性格をもっている事は理解しておかねばなるまい。

第二章「カルヴァン研究」では、利子論と、「秩序と職業」論をとりあげている。第三章「聖トマス研究」は、トマスの共同体思想を、「正義」と「法と愛」の二面から考察している。補論「国家に関するトマスとカルヴァン」は、国家・共同体・統治者の任務・責任・国民の服従とその限界を論じている。

第四章「アウグスチヌス研究」では「アウグスチヌスの共同体思想」がかえりみられ、「神の国」は、血腥ぐさい「地上の国」の中にあって、これと交錯し、戦い、仕えつつある。「地上の国」の衰滅は「神の国」の栄光の時でもあるとする。

巻末の補論三篇「原始教団の共同性――特にエルサレムにおける所有について――」、「古代ユダヤ共同体の成立」「古代ユダヤ共同体の形態」は、時局の緊迫下にあって著者の関心の移行を示すものとして読むと興味深い。（未来社・A5本文二九四頁・巻末に追憶文三篇・一、二〇〇円）　―中村勝己―

＊　＊　＊

J・ジョンストン著
竹内啓訳
『計量経済学の方法』

計量経済学の標準的教科書として最近ほぼ類似のものとして、ジョンストンとゴールドバーガーの著作がある。訳者のまえがきをみると、計量経済学の概説、ないし教科書にはいろいろなタイプがあるが、一つは計量経済学に独自の考え方を強調したもの、一つは手法を網羅的に集めたもの、応用に重点をおいたもの等がある。クライン、チントナー、タイルがそれにあたる。しかしこの本はこれらと違って統計的方法の視点から、しかも線型モデルの推定という立場から、簡単な線型回帰から同時方程式体系にいたるまで展開している。すなわち計量経済学の統計理論がきわめて要領よく、またわかりやすく説明されている、と述べられておりその通りであるといえる。第1部線型正規回帰モデル、ここでは行列の説明を中にはさんで、古典的最小自乗法による推定と検定がとりあつかわれる。第2部計量経済学の理論、ここでは、第6章　変量の誤差、第7章　自己相関、第8章　単一方程式のいろいろな問題、第9章　同時方程式問題Ⅰ、第10章　同時方程式問題Ⅱ、と話が進められてゆく。これらはいずれも計量経済学に特有な問題であり、読者はこれを読むことによって経済問題にあらわれる特有の困難と、これを回避するためにどのような方法がとられなければならないかを知ることができるであろう。説明は簡単なものから順次に複雑なものへと進んでゆくが、紙数の関係もあろうが、もう少し多くの実例があげられていると、一層読者の理解を助けるのではないかと思われた。訳者も述べているが、最後の二章が、他に比べて簡単でむずかしく、これがもう少し詳しくわかりやすく述べられていると、より興味深いものとなったであろう。しかしいずれにせよ、計量経済学の標準的著作の翻訳がでることによって比較的安い値段で、はやく読めることは学生諸君にとっては大きな便宜であると思われる。（東洋経済新報社・A5・三〇四頁・一五〇〇円）　―佐藤　保―

＊　＊　＊

F・ハービソン
C・A・マイヤーズ著
川田寿、桑田宗彦訳
『経済成長と人間能力の開発』

経済成長にとって、単に物質資源だけではなく人的資源が重要であることは今日常識となっており、これに関する書物もいくつか出版されたが、本書はその中でも最も詳しいものであろう。本書の特色は、「広く各国の経済発展と人間能力の問題を実証的に調査研究して、経済発展と人間能力開発の相関関係を見出すべく努力し、その相関値に基づく四つの発展段階類型を設定し、さらにその基礎の上に低開発国の経済発達の手段としての教育投資の政策立案の指針を設定しようとした点である。著者達は単に調査研究しただけに止まらず、多年にわたって開発計画の立案とその推進に参画してきた実践的経験の持主でもある。したがって本書は、著者たちものべているように経済計画立案者、教育・人間能力開発に当たるすべての人たち、経済・政治・社会の近代化に関心をもつ研究者にとってよき参考となるべく、人的資源開発についての一般概念の提起を意図している。それ故に、本書は単なる書斎内の学術研究に限定されるものではなく、政策遂行に役立つ実践的指針の探究を意図している。」と述べられている。本書は一〇章よりなるが、最初の三章において人的資本の開発の度合いに応じてレベルⅠからレベルⅣまでに各国をわける。レベルⅠ（低開発国）、レベルⅡ（部分的開発国）、レベルⅢ（中進国）、レベルⅣ（先進国）、とに分けて、その各々について、教育水準を第一レベル（初等教育）、第二レベル（中等教育）、第三レベル（高等教育）として考察している。第八章からは人的資源と開発計画の総合を述べている。翻訳の五〇頁に七五カ国を一グループとして、一四個の指標の相関を計算した相関行列が示されている。そして七項目にわたって説明が加えられている。一四個の指標とは、1、複合指数、2、一人当りGNP（米ドル換算）、3、農業実動人口百分比、4、人口一人当り教師数、5、人口一万人当りエンジニア及び科学者数、6、人口一万人当り医師及び歯科医師数、7、第1レベル就学率、8、第1及び第2レベル就学率、9、第2レベル就学率、10、第3レベル就学率、11、科学及び技術科在学比、12、人文・学芸・法律学科在学比、13、公共教育支出（対国民所得百分比）、14、5―14歳グループの百分比である。相関関係は因果関係ではないが、最も興味のある一人当りGNPと各指標との相関は次のように示されている。

指標	2指標との相関
1	.888
3	−.818
4	.755
5	.833
6	.700
7	.668
8	.732
9	.817
10	.735
11	.021
12	−.017
13	.101
14	−.515

（ダイヤモンド社・B6・三一八頁・九五〇円）　―佐藤　保―